

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26 - 67	中学校	保健体育科	保健体育	第1学年～第3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
224 学研	保体 728	新・中学保健体育		

1. 編修の趣旨及び留意点

- ①教育基本法ならびに学校教育法に掲げられている教育の目標と一致していることを原則とし、「中学校学習指導要領 第1章総則及び第2章第7節保健体育」に準拠し、あわせて「中学校学習指導要領解説 保健体育編」の解説を参考にして編修するよう留意しています。
- ②生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現及び自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培うために必要な基礎的・基本的内容を重視するとともに、内容の明確化・体系化・現代化を図っています。
- ③生徒の発達段階、小学校体育科ならびに高等学校保健体育科との系統性を重視しつつ、主体的に健康で安全な生活を実践することのできる能力と態度を育成することを重視して、保健体育の基礎・基本となる知識を遺漏なく取り上げるとともに、生徒の興味・関心を引き起こし、意欲・意志を培うために必要な内容を積極的に取り上げています。
- ④健康・安全についての科学的な理解のために、身近な生活における課題を発見し、解決する資質や能力を培うための内容、知識の活用を図る内容を選択しています。
- ⑤体育分野と保健分野の関連を十分に図るとともに、他教科との関連を図り、実生活・実社会と結び付けられるような内容を積極的に取り入れています。

2. 編修の基本方針

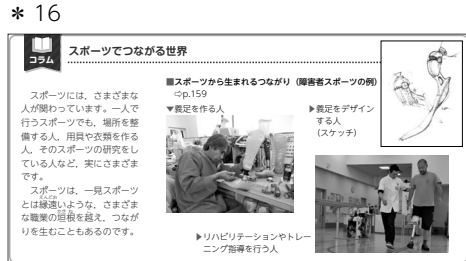
- ①原則として、見開きの2ページが1時間の内容となるように構成しています。学習指導要領の項目構成に従った構成・配列を原則としましたが、細部については、内容の特性や重要度、分量を考慮し、適切な構成・配列に組み換えを行っています。
- ②各章の冒頭に学習内容に関連した写真を使用し、学習内容の見通しを立て、系統性を把握できるようにしています。また、関連する人物の名言や功績、職業や資格を紹介し、学習内容と実生活との関連を実感できるようにしています。
- ③各時間の冒頭に学習内容とキーワードを明示し、1時間で学ぶことの見通しを立て、明確な意図を持って学習に取り組めるようにしています。
- ④本文は、基礎的・基本的な内容が明確になるよう、正確かつ簡潔な記述を心がけています。
- ⑤適所に、作業課題を配置することによって、学習内容の定着を図ったり、思考力・判断力・表現力などを育むための、知識の活用を図る学習活動を行ったりできるようにしています。
- ⑥章末に設定した研究課題（「探究しようよ！」）で、課題の例や学習の仕方を示すことなどによって、課題解決的な学習が展開されるようにしました。また、実験、調査、実習などの活動を積極的に取り入れています。
- ⑦章末に自己評価欄（「章のまとめ」）を設けることによって、生徒の内容理解に対する自己評価を助けるとともに、反復的・継続的な学習を行ったり、学習したことを日常生活に活用するための意欲を持ったりできるように配慮しています。
- ⑧図表、写真、イラストを適所に使用し、生徒が興味・関心を持って学習に取り組み、理解を深められるようにしています。
- ⑨口絵は、保健体育科への興味・関心を高めるとともに、実生活への関連を図り、個人の能力を伸ばし、将来への展望を持つことができるよう、テーマ性を持たせて構成しています。
- ⑩実生活に生かすことのできる内容、現代的な健康課題、生徒の不安を解消するために必要な内容などを、側注、脚注、コラムなどを用いて随所に取り上げています。

3. 対照表			
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
教科書全体	<p>◎編修の趣旨及び留意点, 基本方針で示したように, 幅広い知識とともに, 健やかな体と豊かな心を養うことができるように編修を行っています (第1号)。</p> <p>◎健康や生涯にわたるスポーツライフ実現のためには, みんなで助け合い, 支え合うことが必要であることを基本的な編集方針として記述, 構成しています (第3号)。</p>	教科書全体	
口絵	<p>◎日本各地の健康・安全・スポーツに関する施設や史跡を取り上げ, 幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにしています (第1号)。</p> <p>◎健康・安全・スポーツの分野で世界で活躍する人を取り上げ, 個人の能力の発揮や, 生活と職業との関係を身近にするとともに, 勤労の尊さに気づくようにしています。また, 自他の敬愛と協力を重んずる態度や生命尊重, 環境の保全の大切さにも気づくようにしています (第2号, 第3号, 第4号, 第5号)。</p> <p>◎保健体育に関する書籍や映画を取り上げ, 幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにしています (第1号)。</p>	見返し~p.1 p.2 p.3	
保健編 1章 心身の発達と 心の健康	<p>◎学習内容に関連した偉人の功績や名言を紹介し [* 1], 幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにしています (第1号)。</p> <p>◎学習内容に関連した職業や資格を紹介し [* 2], 職業と生活の関係を身近にするとともに, 勤労の尊さに気づくようにしています (第2号)。</p> <p>◎心身の発達と心の健康について学ぶことを通して, かけがえのない自分に気づけるようにするとともに他者を尊重する態度を養えるように配慮しています (第3号)。</p> <p>◎心の健康では, 生命尊重に関わるようないじめの問題などを鑑み, 社会性の発達, 自己形成, コミュニケーションに重点を置いています (第2号, 第4号)。</p>	<p>* 1  レオナルド・ダ・ヴィンチ 1452~1519年/ イタリア生まれ 「食欲なくして食べることが健康に資があること, 欲望を伴った知識は記憶をこぼし, 記憶したことを保存しない。」 (杉浦明彦「レオナルド・ダ・ヴィンチの手記」より)</p> <p>レオナルド・ダ・ヴィンチは, 有名な「モナ・リザ」をはじめとする絵画から, 科学, 発明, 解剖学などの多様な分野で多くの業績を残したことから「万能の天才」などと称されています。晩年になっても無限の探究心で, 人体を描くのに必要な, 骨や筋肉など人体の構造の研究を行いました。これは, 現代のバイオメカニクスという学問につながる最初の研究といわれています。</p> <p>* 2  保健体育教師 生徒の心身の発達・発達を促しながら, 毎日の授業や部活動などで, 運動の楽しさや健康の大切さなどを伝えていきます。</p> <p>生徒や先生など, 学校にいる人の相談や心のケアを行っています。</p>	p.9 p.9 p.8~33 p.20~29
保健編 2章 健康と環境	<p>◎学習内容に関連した偉人の功績や名言を紹介し [* 3], 幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにしています (第1号)。</p> <p>◎学習内容に関連した職業や資格を紹介し [* 4], 職業と生活の関係を身近にするとともに, 勤労の尊さに気づくようにしています (第2号)。</p> <p>◎健康と環境について学ぶことを通して, 環境を保全することの大切さを記述しています (第4号)。</p> <p>◎コラムや脚注で, 昔から伝わっている技術や, 世界的に広まった日本語を紹介しています (第5号)。</p> <p>◎公害から学んだ教訓を基に, 世界の持続的な発展のために人類全体で共有する必要があることについて取り上げています (第5号)。</p>	<p>* 3  ヒポクラテス 紀元前460年頃~紀元前377年頃/ギリシャ生まれ 「病気を予防するには, 空気, 水, そして住む場所が大切である。」</p> <p>ヒポクラテスは, 古代ギリシャ時代において, 哲学や迷信に基づいた医学から観察と記録に基づいた医学への転換を図りました。現在の医学につながる考えを示したことから「医学の祖」と呼ばれています。 病気の予防や健康の保持を重視し, そのためには, 空気や水, 住む場所といった生活環境への配慮が大切であると説きました。</p> <p>* 4  環境と健康を守る仕事 学校減菌師 学校内の空気, 水などの衛生環境の検査や, 菌類の維持・空気の計測や指導などを行っています。(写真撮影あり)</p>	p.35 p.35 p.34~55 p.45, 47 p.48~51

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>保健編 3章 傷害の防止</p> <p>◎学習内容に関連した日本の偉人の功績や名言を紹介し [* 5]、幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにするとともに、我が国と郷土を愛する心を育てるようにしています (第1号, 第5号)。</p> <p>◎学習内容に関連した職業や資格を紹介し [* 6]、職業と生活の関係を身近にするとともに、勤労の尊さに気づくようにしています (第2号)。</p> <p>◎地域における安全、特に防犯、防災の取り組みを自助・共助・公助の視点から取り上げています (第3号)。</p> <p>◎コラムで、地震による被害に基づいた教訓として伝えられてきた「津波でんでんこ」を取り上げています (第5号)。</p> <p>◎コラムで、東日本大震災における中学生の活躍を取り上げ [* 7]、主体的に社会に関わることができることを身近に感じられるようにしています (第3号)。</p>	<p>* 5  ひと 樋口 雄策 1820～1885年／ 和歌山県広川町生まれ 「もったいないが、これで村中の命が救えるのだ」と、五兵衛はいきなりその稲むらの一つに火を移した。」 〔稲むらの火より〕</p> <p>樋口雄策は、1854年に起きた安政南海地震で、津波が広川(現・和歌山県広川町)を襲うことを察知し、自分の田で刈り取った稲の束に火をつけ、人々が逃げる先を知らせ、村人の命を救いました。私財を犠牲にして人の命を救ったこの出来事は、「稲むらの火」という物語となっており、小学校指定教科書に掲載されました。また、村の復興時には防災館の建設も行いました。この防災館は今も「広川歴史館」として残っています。</p> <p>* 6 安全を守る仕事</p> <p>警察官 交通安全、生活安全、犯罪防止、災害安全などに携わっています。 (三重県)</p> <p>消防士 火災の消火、事故や災害時の救助などを行っています。 (兵庫県宝塚市)</p> <p>救急救命士 救急現場や救命車内で、救急救命処置を行っています。 (兵庫県宝塚市)</p> <p>* 7 コラム 自然災害時の避難と中学生</p> <p>自然災害、特に地震はいつ発生するかわかりません。学校に行っている時間帯に発生した場合は、仕事のために、その地域にいる大人が少ないことも想定されます。自分で判断して行動することができ、身体的体力もある中学生は、率先して避難したり、周囲に避難を促したり、避難した先でさまざまな手助けをすることができる存在として期待されています。</p> <p>▼ボランティア活動をする被災地の中学生 (若手側火災救助)</p> 	<p>p.57</p> <p>p.57</p> <p>p.64~71</p> <p>p.71</p> <p>p.71</p>
<p>保健編 4章 健康な生活と病気の予防</p> <p>◎医学の分野で世界的な業績を上げた山中伸弥氏を取り上げています (第5号)。</p> <p>◎学習内容に関連した日本の偉人の功績や名言を紹介し [* 8]、幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにするとともに、我が国と郷土を愛する心を育てるようにしています (第1号, 第5号)。</p> <p>◎学習内容に関連した職業や資格を紹介し [* 9]、職業と生活の関係を身近にするとともに、勤労の尊さに気づくようにしています (第2号)。</p> <p>◎脚注で、感染症の治療薬を開発した日本人を取り上げています (第5号)。</p> <p>◎保健・医療機関や健康を守るための活動の具体例を挙げ、公的に行われている職業の重要性を学べるよう配慮しています (第2号)。</p> <p>◎共に健康に生きる社会について学ぶことや、臓器移植やユニバーサルデザインについて考えることを通して、他者の尊重とともに、社会に積極的に参加することについて記述しています (第3号)。</p>	<p>* 8  ひと 高木 兼寛 1849～1920年／ 宮崎県宮崎市生まれ 「病気を治すして、病人を治す」</p> <p>1880年代の日本では、脚気(ビタミンB₁欠乏により下肢のしびれや心臓病が起こる病気)が広がっていました。食事に雑穀があると考えた高木兼寛は、海軍で食事を白米から雑穀に切り替える実験を行い、脚気の減少に成功しました。脚気の原因は正しく解明されませんでした。後に、脚気に対する薬の効果の研究から、鈴木梅太郎によってビタミンB₁が発見されるに至りました。高木の功績をたたえ、南極大陸に「高木洞」と名付けられた跡があります。</p> <p>* 9 病気から守る仕事</p> <p>看護師 医師による診療の補助や患者の世話、健康教育などを行っています。 (宮城県石巻市)</p> <p>保健師 地域の人々の健康を守るために、保健指導や健康教育などを行っています。 (東京都葛飾区)</p>	<p>p.84</p> <p>p.85</p> <p>p.85</p> <p>p.114</p> <p>p.118~123</p> <p>p.122~125</p>

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
体育編 1章 スポーツの 多様性	<p>◎スポーツの発展の一例として「蹴まり」を紹介しています(第5号)。</p> <p>◎学習内容に関連した偉人の功績や名言を紹介し[* 10], 幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにしています(第1号)。</p> <p>◎学習内容に関連した職業や資格を紹介し[* 11], 職業と生活の関係を身近にするとともに、勤労の尊さに気づくようにしています(第2号)。</p> <p>◎スポーツを支える関わり方の学習を通して、職業やボランティアなどの重要性を学べるように配慮しています(第2号, 第3号)。</p>	<p>p.132</p> <p>p.133</p> <p>p.133</p> <p>p.137, 142</p>
体育編 2章 スポーツの 効果と安全	<p>◎お互いをたたえ合うスポーツの写真を掲載し、他者を尊重する態度を養えるよう配慮しています(第3号)。</p> <p>◎学習内容に関連した日本の偉人の功績や名言を紹介し[* 12], 幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにするとともに、我が国と郷土を愛する心を育てるようにしています(第1号, 第5号)。</p> <p>◎学習内容に関連した職業や資格を紹介し[* 13], 職業と生活の関係を身近にするとともに、勤労の尊さに気づくようにしています(第2号)。</p> <p>◎スポーツを行うことで、心身の発達や心の健康に効果があることを理解できるようにしています(第1号)。</p> <p>◎スポーツに求められる社会性について学ぶことを通して、ルールやマナーを守ることや他者を尊重することなどの重要性に気づくようにしています(第3号)。</p> <p>◎野外スポーツの安全な行い方について学ぶ中で、自然を大切にすることを養うことができるよう配慮しています(第4号)。</p>	<p>p.146</p> <p>p.147</p> <p>p.147</p> <p>p.148~149</p> <p>p.150~151</p> <p>p.153</p>
体育編 3章 文化としての スポーツ	<p>◎学習内容に関連した日本の偉人の功績や名言を紹介し[* 14], 幅広い知識と教養を身に付ける態度を養えるようにするとともに、我が国と郷土を愛する心を育てるようにしています(第1号, 第5号)。</p> <p>◎学習内容に関連した職業や資格を紹介し[* 15], 職業と生活の関係を身近にするとともに、勤労の尊さに気づくようにしています(第2号)。</p> <p>◎コラムで、東日本大震災の支援にスポーツの力が貢献したことを取り上げています(第3号)。</p>	<p>p.159</p> <p>p.159</p> <p>p.161</p>

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	<p>◎国際的なスポーツ大会が果たす役割について学ぶことを通して、スポーツが国際社会の平和と発展に寄与することを学ぶことができるようにしています(第5号)。</p> <p>◎嘉納治五郎の発言を基に、伝統的な心の習慣について学べるよう工夫しています(第5号)。</p> <p>◎スポーツがさまざまな違いを超えることについて学ぶことを通して[* 16], 他者を尊重する態度を養うとともに、それらの活動を支える職業との関連に気づくようにしています(第2号, 第3号)。</p> <p>◎パラリンピックの名称が日本で生まれたことを取り上げています(第5号)。</p> <p>◎スポーツと環境(自然)が関わっていることを学べるようにしています(第4号)。</p> <p>◎ユニバーサルスポーツについて学べるようにしています(第2号)。</p>	<p>p.162~163</p> <p>p.164</p> <p>p.165</p> <p>p.167</p> <p>p.168</p> <p>p.168</p>
資料	<p>◎日本とオリンピックについての資料を豊富に掲載し、スポーツを通じた国際平和への貢献について学べるようにするとともに、大会で活躍した人や支えてきた職人などを通じて、誇りを持てるように工夫しています(第5号)。</p> <p>◎オリンピック(金メダリスト)から中学生へのメッセージを掲載し[* 17], 自分自身の可能性を信じて目標に向かって努力することの大切さに気づくことができるようにしています(第2号)。</p>	<p>p.175~178</p> <p>p.178</p>



4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本文の記述に当たっては、できるだけ平易に、理解しやすく表現するよう努め、生徒の読解に支障をきたさないよう配慮しています。

漢字は、中学生以降に配当されている漢字の全てにふりがなを付けています。また、交ぜ書きによる読みにくさを避け、できるだけ漢字を使用するようにしています。

イラスト、写真の使用に当たっては、内容、点数ともに学習上の効果に十分配慮するとともに、本文記述と適切に関連づけています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

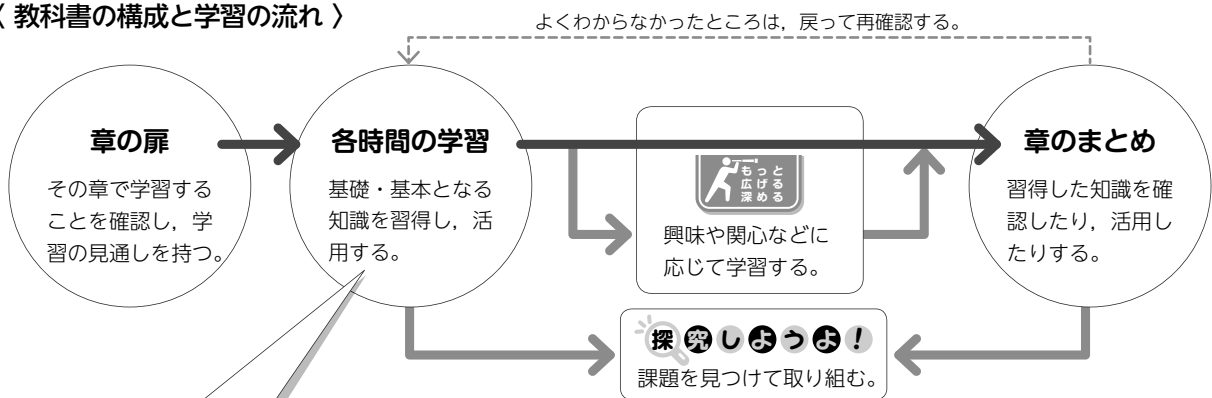
※受理番号	学校	教科	種目	学年
26 - 67	中学校	保健体育科	保健体育	第1学年～第3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
224 学研	保体 728	新・中学保健体育		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 学習の進め方や、自ら学び、自ら考える力を育むための特色と工夫

- 1 統一感のある紙面構成, わかりやすいマークなどにより, 全体の流れを見通すことができ, 学習内容の把握から, 基礎・基本の習得と活用, 探究, 振り返り学習までの進め方がひと目でわかるようにしています。
- 2 系統性を重視した学習, 実習, 言語活動, 協働学習などをわかりやすいマークで示しています。また, 学習活動の種類(行い方)もひと目でわかるように示しています。
- 3 「もっと広げる深める」, 「探究しようよ!」を設け, 現代的な健康課題や生徒の興味・関心などに応じて学習を深めることができるようにしています。

〈教科書の構成と学習の流れ〉



◆1時間の主な流れ

- 1 **学習の目標**
1時間の学習を通して身に付けることについて確認する。
- 2 **ウォームアップ**
経験や今ある知識を生かして取り組む。
- 3 **本文と資料**
基礎・基本の知識について学習する。
- 4 **エクササイズ**
考えたり, 話し合ったり, 調べたりする。
- 5 **活用しよう**
学習を通して身に付けた知識を活用して取り組む。

12 保健・医療機関の利用

① 学習の目標

② ウォームアップ

③ 保健機関とその利用



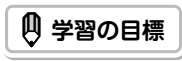
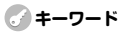


④ エクササイズ

⑤ 活用しよう

118

2 内容の選択・編成の特色と工夫

1 「生きる力」を支える確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むために

<p>よりいっそう 充実した内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1時間の内容を見開き2ページとし、充実した本文と資料、課題などによって構成しており、その分量は1時間の内容として最適です。 ● 基礎的・基本的な内容である各時間の内容と区別して、発展的な学習を可能にする「もっと広げる深める」や「探究しようよ!」,「資料」のページを設定することによって、自由にカリキュラム編成ができるようにしています。この発展的な内容のページを充実させることによって、全体のページ数を大幅に増加させました(全184ページ)。 	 
<p>学習内容の系統性、 体育と保健の関連、 他教科との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 系統性を重視して内容を編成することはもちろん、各章の扉で小学校で学習したことと中学校で学習すること、さらに高校で学習することを見通すことができるようにし、小中連携につなげやすくしています。 ● 心と体を一体として捉える観点を重視し、体育分野と保健分野の関連を図っています。 ● 他教科との関連を十分に図り、健康との関わりから必要な内容については、保健体育独自の観点から取り上げています。 	
<p>学習内容の 明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 保健編・体育編の扉と各章の扉で、メッセージと写真によって学習することを明確に示しています。 ● 各時間の冒頭に「学習の目標」「キーワード」を設け、その時間で学習し身に付けることと重要語句を示しています。 ● 本文中では、重要な語句を太字で示しています。 	 
<p>知識を活用する 学習活動の重視</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 各時間に「活用しよう」または「実習」を設け、その時間で習得した基礎的・基本的な知識を活用することができるようにしています。 ● 各章の「章のまとめ」では、知識を活用することができる「活用の問題」を設けています。 	 
<p>健康・安全に 関する知識の 科学的な理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 読みやすく正確な本文によって、科学的に理解できるようにしています。 ● 写真資料や工夫された図解などを豊富に掲載し、視覚的に捉えることができるようにするとともに、科学的な理解が深まるようにしています。 	
<p>道徳教育との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生命尊重、他者の尊重、個性伸長、生活習慣、自立、環境保全、公共心など、学習指導要領に示された道徳の内容について、保健体育の学習全体を通して関連を図ることができるようにしています。 ● 保健体育との関連が特に深い内容として、コミュニケーション (p.23~29, 31) やユニバーサルデザイン (p.123, 125), ユニバーサルスポーツ (p.168) などを取り上げています。 	
<p>食育との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学生の生活と食事についての口絵 (p.4~5) や食生活と健康 (p.90~91) の学習によって、興味・関心を持って学習することができるように工夫しています。 ● 思春期の発育・発達や生活習慣病の予防などで、バランスのとれた食生活が重要であること(「早ね・早おき・朝ごはん運動」など)を取り上げています (p.96)。 ● 脚注で「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを取り上げています (p.91)。 	
<p>体力向上との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 思春期の発育・発達や生活習慣病との関連、体力の必要性(災害から身を守る力)などを取り上げ、体力や運動習慣の必要性に気づかせるとともに、体力テストを活用した体力の高め方についても示しています。 	

2 豊かで質の高い学習活動や、生徒の興味・関心などに応じた学習や指導のために

言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●各時間の学習活動において、話し合いや記述、発表などの言語活動を積極的に取り入れ、特に、言語活動が重要となるものには、言語マークを付けています。 	言語
体験的な学習や課題解決的な学習の重視	<ul style="list-style-type: none"> ●随所に、実習などの体験的な学習を取り入れています。特に口絵「行って見て学ぼう」では、実際に訪ねることを勧めています。 ●各時間末の「活用しよう」では、課題解決的な学習を多く取り入れています。 	
学習したことを振り返る活動	<ul style="list-style-type: none"> ●各章末の「章のまとめ」で、重要語句の確認、基礎的・基本的な知識の習得とその活用ができるようにし、これらを通して自己評価をすることができるようにしています。 ●保健編と体育編それぞれの最後に「保健の学習の終わりに」「体育の学習の終わりに」を設け、学習全体を振り返るとともに、学習を終えた後の生活に結び付けられるようにしています。 	
協働学習	<ul style="list-style-type: none"> ●協働学習として取り組みやすい課題を積極的に取り入れ、その課題には協働マークを付けています。 	協働
生徒の興味・関心に応じた学習や指導	<ul style="list-style-type: none"> ●各章末に「探究しようよ！」を設け、学習内容に関係が深く、中学生が興味・関心を持ちやすい課題を取り上げています。 <p> 適正体重を知ろう/ストレス (p.30)、コミュニケーション (p.31)、熱中症とその予防 (p.52)、放射線と健康 (p.53)、離岸流/自転車事故と運転者の責任 (p.80)、犯罪被害の防止/熱中症の手当 (p.81)、脳死と臓器移植/ダイエット (p.124)、インターネットと健康/医薬品の使い方/ユニバーサルデザイン (p.125)、スポーツを見る/スポーツを支える活動 (p.142)、メンタルトレーニング (p.143)、スポーツの技術 (p.144)、体力の必要性-災害から身を守る力 (p.154)、けがと練習計画 (p.155)、けがの応急手当と再発予防 (p.156)、オリンピック (p.166~167)、スポーツと環境/ユニバーサルスポーツ (p.168)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習内容に関連した現代的な健康課題として重要なものを、「もっと広げる深める」として豊富な資料とともに取り上げています。 <p> 人類と地球の未来のために (p.50~51)、自然災害 (p.68~69)、自然災害から身を守るために (p.70~71)、がん (p.98)、アレルギー (p.99)、たばこ・酒・薬物に手を出さないために (p.108)</p>	
学習内容が生活に結び付くような記述の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●学習内容全体を通して、中学生の生活と関連づけて構成するように配慮しています。 ●テーマ性を持った口絵を設け、保健体育の学習内容と生活との関係に気づきやすくしています。 ●各章の扉で、学習内容に関連した仕事(資格)を取り上げています。 ●各時間の「活用しよう」、章のまとめの「活用の問題」で、生活と結び付いた課題解決的な活動や問題を豊富に取り入れています。 	

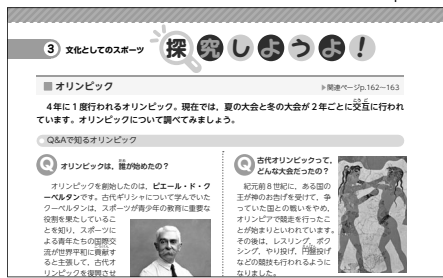
3 現代に生きる中学生の健康課題や興味・関心に応えるために

防災に関する内容の重視	<ul style="list-style-type: none"> ●自然災害や二次災害における安全の確保の内容を充実させ(計6ページ)、過去の大きな災害から学ぶ教訓の形で展開しています。また、「自助・共助・公助」の視点を提示しつつ、日頃の備えの重要性を学べるようにしています(p.66~71)。 ●災害から身を守るための体力の必要性について取り上げています(p.154)。
心の健康を重視	<ul style="list-style-type: none"> ●思春期の心の発達を重視し、社会性の発達について2ページ(1時間)を充てています(p.22~23)。 ●コミュニケーション、欲求不満やストレスへの対処を充実させ、実習や具体的な資料を取り入れています(p.23~31)。 ●いじめについて取り上げ、さまざまな相談窓口があることなどを示しています(p.23, 29)。

現代的な
健康課題や題材を
豊富に掲載

- 犯罪被害の防止を充実させ、2ページ（1時間）を充てています（p.64~65）。
- インターネット（コミュニティサイト）を通じた被害（p.19）や、インターネット依存（p.125）など、コンピュータやタブレット使用などによって生じる問題について取り上げています。
- 薬物乱用に関して、いわゆる脱法ハーブなど最新の内容を取り上げるとともに、実習などを通して薬物に手を出さないために必要な知識や対処方法について学べるようにしています（p.104~109）。
- 医薬品の使用の内容を充実させ、2ページ（1時間）を充てています（p.120~121）。
- オリンピックについての内容を充実させ、オリンピズムや日本とオリンピックの関係、パラリンピックなどについて学べるようにしています（p.162~163, 166~167, 175~178）。

●オリンピ
ックに関
する内容
の例



4 生徒が意欲的に学習に取り組むために

身近な問題として
実感するための工夫

- 資料やコラムで中学生の事例を取り上げたり、各時間の課題で身近な事例を取り上げたりしています。

▶p.71



自らの将来に
ついて考えるための
工夫

- 口絵や扉でさまざまな仕事（資格）を紹介し、キャリア教育につながるようにしています。
- オリンピックからのメッセージを掲載し、自分自身の可能性を信じて目標に向かって努力することの大切さを伝えています。

▼p.178



3 教科書の構成や製本などの工夫

●使いやすさや見やすさなどを追求した、使う人にやさしい教科書づくり

見やすく
わかりやすい
デザイン・
レイアウト

- 本文の位置をページ内の左側に固定し、常に同じ視線の流れで学べるようにしています。また、豊富な情報量でも見やすくなるように、本文、資料などをブロック単位で配置しています。これらは、どのページでも本文の位置が同じ、拡大しやすいなど、デジタル教科書や拡大教科書を見据えたレイアウトです。
- 本文中の資料へのガイドをマークにして、本文と資料の関連がわかりやすくなるようにしています。
- 活字は大きく、見やすい書体を使用しています。また、資料などでは読み違いを起しにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。
- 図解やグラフなどは、カラーユニバーサルデザインに配慮して作成しつつ、視覚的に捉えやすいように工夫しています。
- イラストは、理解を助け、中学生が親しみをもちるように表現しています。
- 印刷には、環境に配慮して作られた紙、植物油インキを使用し、環境負荷の小さいCTP方式で印刷しています。
- 製本は、リサイクル性の高いPURのりを使用しています。

環境に配慮した
教科書づくり

2. 対照表

図書構成・内容		学習指導要領の内容		該当箇所	配当時数					
保 健 編	1 心身の発達と心の健康	保 健 分 野 2 内 容 の 取 扱 い (1) ～ (10)		p.8～33	小計 10 時間					
	1 体の発育・発達			(1)ア	p.10～11	1				
	2 呼吸器・循環器の発達			(1)ア, 内容の取扱い(2)	p.12～13	1				
	3 生殖機能の成熟			(1)イ, 内容の取扱い(3)	p.14～17	2				
	4 性とどう向き合うか			(1)イ, 内容の取扱い(3)	p.18～19	1				
	5 心の発達 (1) 知的機能と情意機能の発達			(1)ウ	p.20～21	1				
	6 心の発達 (2) 社会性の発達			(1)ウ	p.22～23	1				
	7 自己形成			(1)ウ	p.24～25	1				
	8 欲求不満やストレスへの対処			(1)エ, 内容の取扱い(4)	p.26～29	2				
	2 健康と環境				p.34～55	小計 7 時間				
	1 環境の変化と適応能力			(2)ア	p.36～37	1				
	2 活動に適した環境			(2)ア	p.38～39	1				
	3 室内の空気の条件			(2)イ	p.40～41	1				
	4 水の役割と飲料水の確保			(2)イ	p.42～43	1				
	5 生活排水の処理			(2)ウ	p.44～45	1				
	6 ごみの処理			(2)ウ	p.46～47	1				
	7 環境の汚染と保全			(2)ウ, 内容の取扱い(5)	p.48～49	1				
	3 傷害の防止				p.56～83	小計 9 時間				
	1 傷害の原因と防止			(3)ア	p.58～59	1				
	2 交通事故の現状と原因			(3)イ	p.60～61	1				
	3 交通事故の防止			(3)イ	p.62～63	1				
	4 犯罪被害の防止			(3)イ	p.64～65	1				
	5 自然災害に備えて			(3)ウ	p.66～67	1				
	6 応急手当の意義と基本			(3)エ, 内容の取扱い(6)	p.72～77	2				
	7 きずの手当			(3)エ, 内容の取扱い(6)	p.78～79	2				
	4 健康な生活と病気の予防				p.84～129	小計 17 時間				
	1 健康の成り立ち			(4)ア	p.86～87	1				
	2 運動と健康			(4)イ	p.88～89	1				
	3 食生活と健康			(4)イ, 内容の取扱い(7)	p.90～91	1				
	4 休養・睡眠と健康			(4)イ, 内容の取扱い(7)	p.92～93	1				
	5 生活習慣病とその予防			(4)イ	p.94～97	2				
	6 喫煙と健康			(4)ウ, 内容の取扱い(8)	p.100～101	1				
	7 飲酒と健康			(4)ウ, 内容の取扱い(8)	p.102～103	1				
	8 薬物乱用と健康			(4)ウ, 内容の取扱い(8)	p.104～105	1				
	9 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ			(4)ウ, 内容の取扱い(8)	p.106～107	1				
	10 感染症とその予防			(4)エ	p.110～113	2				
	11 性感染症とその予防/エイズ			(4)エ, 内容の取扱い(9)	p.114～117	2				
	12 保健・医療機関の利用			(4)オ	p.118～119	1				
	13 医薬品の有効利用			(4)オ	p.120～121	1				
	14 共に健康に生きる社会			(4)カ	p.122～123	1	保健計 43 時間*			
	体 育 編			1 スポーツの多様性	体 育 分 野 2 ー H 内 容 の 取 扱 い (2) ー ク		p.132～145	小計 3 時間		
				1 スポーツの始まりと発展			(1)ア	p.134～135	1	
				2 スポーツへの多様な関わり方			(1)イ	p.136～137	1	
				3 スポーツの学び方			(1)ウ	p.138～141	1	
				2 スポーツの効果と安全				p.146～157	小計 3 時間	
				1 スポーツが体と心に及ぼす効果			(2)ア	p.148～149	1	
				2 スポーツと社会性			(2)イ	p.150～151	1	
3 スポーツの安全な行い方		(2)ウ	p.152～153	1						
3 文化としてのスポーツ			p.158～169	小計 3 時間						
1 スポーツの文化的意義		(1)ア	p.160～161	1						
2 国際的なスポーツ大会とその役割		(1)イ	p.162～163	1						
3 人々を結び付けるスポーツ	(1)ウ	p.164～165	1	体育計 9 時間						

*この他に、課題学習等を5時間程度想定している。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26 - 67	中学校	保健体育科	保健体育	第1学年～第3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
224 学研	保体 728	新・中学保健体育		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項
37	脚注 放射線と健康について、 調べてみましょう。	2	保健分野 (2) 健康と環境について理解できるようにする。 ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。
49	コラム内 放射線と健康について 調べてみましょう。	2	保健分野 (2) 健康と環境について理解できるようにする。 ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。
50～51	人類と地球の未来のため	1	保健分野 (2) 健康と環境について理解できるようにする。 ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。
53	放射線と健康	2	保健分野 (2) 健康と環境について理解できるようにする。 ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。
61	脚注 自転車事故と損害賠償	1	保健分野 (3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。 イ 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。
75	AED を用いた手当	1	保健分野 (3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。 エ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。
77	脚注 熱中症の手当について 調べてみましょう。	1	保健分野 (3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。 エ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。
80	離岸流	2	保健分野 (3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。 ア 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかわって発生すること。 体育分野 第1学年及び第2学年 H体育理論 (2) 運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。 ウ 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項
80	自転車事故と運転者の責任	1	保健分野 (3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。 イ 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。
81	熱中症の手当	1	保健分野 (3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。 エ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。
86	脚注 医学の進歩は、心臓や肝臓などの臓器の移植も可能にしました。自分が脳死になったとき、臓器を提供するかしないかについて、考えを出し合ってみましょう。	1	保健分野 (4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。 ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因がかかり合って発生すること。
98	がん	1	保健分野 (4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。 イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。
99	アレルギー	2	保健分野 (4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。 ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因がかかり合って発生すること。
124	脳死と臓器移植	1	保健分野 (4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。 ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因がかかり合って発生すること。
125	インターネットと健康	1	保健分野 (4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。 イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。
168	スポーツと環境	1	体育分野 第3学年 H体育理論 (1) 文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。 ア スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であること。 イ オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 16)

(「類型」の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容